回復期リハビリテーション病棟を対象とした脳卒中患者の栄養管理に関する検討

渡邉美鈴[1)] 工藤裕子[1)] 大澤直樹[1)] 風晴俊之[2)] 谷崎義生[3)] 美原盤[4)]

1) 脳血管研究所 美原記念病院 栄養科

2) 脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション科

3) 脳血管研究所 美原記念病院 脳神経外科

4) 脳血管研究所 美原記念病院 神経内科

【はじめに】脳卒中患者の栄養管理は極めて重要であるものの、十分な検討はなされていない。今回、回復期リハビリテーション病棟入院患者を対象に、栄養管理のあり方を検討した。

【対象および方法】対象は、平成23年4月から平成25年3月までの間に当院回復期リハビリテーション病棟を退院した脳卒中患者とし、当院急性期病棟からの入棟者を当院群、他院からの入棟者を他院群として栄養管理の状況と転帰を比較した。

【結果】入棟時のFIMスコア、嚥下グレードに差は認められなかったものの、発症から回復期リハビリテーション病棟入棟までの日数、栄養補給方法および食形態に関して、有意差が認められた($p<0.01$)。他方、退院時における栄養補給方法、食形態に関して、両群に有意差は認められなかった。しかしながら、在院日数は当院群が有意に短かった($p<0.01$)。

【考察】当院群は、急性期病棟での治療過程において食形態の調整が成されていたのに対し、他院群では粥咀嚼対応食が多く、調整が充分でなかった。これらの差が、回復期リハビリ病棟の入院日数に影響を及ぼした可能性がある。

【結語】脳卒中患者の栄養管理を急性期から適切に行うことは、回復期リハビリ病棟を含むトータルの入院日数短縮につながり得ると考えられる。